



石垣を守ろう会の吉田清一^{せいいち}さんに石垣の修復を教わる
南宇和高校生やインドネシア留学生

8/18~9/5 インドネシアから留学生

愛媛大学など日本とインドネシアの6大学が協働で実施する短期の地域滞在事業が行われ、インドネシアからやってきた学生や愛大生らが10日間に渡って愛南町外泊地区に滞在して、地元住民や南宇和高校の生徒らと交流を行いました。

学生らは滞在中に地元の地蔵盆と呼ばれる伝統行事に参加したり、石垣を守ろう会の吉田清一^{せいいち}さんの手ほどきを受けながら石垣の修復を体験しました。

ボゴール農業大学経済・経営学部のノヴィ・ヘルダヤンティさんは「外泊はインドネシアと比べてとても静か。地域の人は親切で温かい」と感想を話しました。

8/23 AED 使って心肺蘇生

重大事故が起きた際の対応について学ぼうと城辺小学校で教職員を対象にしたシミュレーション演習が行われました。

運動場で児童が倒れた状況を想定して行われた演習では、参加した教職員が管理職や教諭、養護教諭などの役に分かれて、胸骨圧迫やAEDを使用した心肺蘇生に取り組みました。

講師を務めた愛媛大学大学院医学系研究科の檜垣高史^{たかふみ}教授は「実際に事故が発生した場合でも慌てずに迅速かつ適切にAEDを使用してほしい」と呼びかけました。



運動場で児童が倒れた状況を想定して、真剣に胸骨圧迫に取り組む教職員

あんなことや、 こんなこと—TOWNコミュ

本日!海日和!! vol.83

「目玉は、どーこだ?」



スミツキトノサマダイ

10月10日は目の愛護デーである。私事ながら、最近めつきりと老眼が進んでしまい、小さな文字が見えにくくなってしまった。目の大切さを改めて感じる今日この頃である。

魚にとっても目が大切なのは言うまでもない。スミツキトノサマダイは目玉を使って、おどろきの方法で身を守っている。大きな魚が小魚を狙うときには、頭から襲いかかり、丸飲みにする。そのときの目印の一つが目だと言われている。

スミツキトノサマダイは、捕食者をあざむくために、大きな目玉模様を体の後ろに付けて、こちらが頭であるかのように見せかけている。その上、本物の目は、黒い帯で隠してしまう念の入れようである。だまされた捕食者は、後ろから襲い掛かることになり、なかなか捕まえることができない。

捕食者はだませても、目のいい? 私はだまされずに、本当の頭の方から近づいて撮影完了!

(撮影地: 鹿島)

愛南サンゴを守る会 西尾知照^{ともてる}

8/29 花壇管理の功績に対して感謝状授与

長年にわたる道路添いの花壇管理の功績に対して、愛南町一本松女性団体連絡協議会が国土交通大臣から感謝状を授与されました。同協議会では月に1回程度、増田地区の国道添いの花壇で花植えや草引きなどの作業を行っています。

感謝状を受け取った田村^{きなえ}早苗会長は、「みんなが気持ちよく参加してくれます。心地よく、住みよい町になるように出来ることをしていきたい」と話しました。



8/29 からだであそぼう

はまゆう乳幼児保育所で園児らを対象にからだを使ったワークショップが行われました。

南宇和障害者の社会参加を進める会が、未来を生きていく愛南町の子どもたちのためにできることに取り組もうと立ち上げた「愛南町の未来を創るプロジェクト」の一環として行われたものです。

参加した子どもたちは、松山からやってきた「ヤミーダンス」のメンバー4人と一緒に、決まった形がなく自分のタイミングで自由に動いて表現するコンテンポラリーダンスを体験。音楽を聞いたり人に触れたりしながら、思い思いに体を動かしました。



9/1 増田安養寺で「はなとりおどり」

愛媛県の指定無形民俗文化財に指定されているはなとりおどり（増田）が増田安養寺境内で行われました。はなとりおどりは、高山尊神とちよぼし弥三郎兄弟の供養、増田地区の安全祈願のために始まったとされ、400年の伝統を持つ踊りです。古くからの歴史を色濃く伝え、頭に巻く鉢巻の形が修験道の行者の被り物を真似ているのはその証とも言われています。

まだ夏の強い日差しが残るなか、踊り子は境内に設けられた結界の中で、真剣を使用した勇壮かつ厳粛な踊りを披露しました。



9/10 イライラとの上手なつきあい方を学ぶ

愛媛県在宅介護研修センター出前講座「アンガーマネジメントの基本を学ぶ」（主催：傾聴ボランティアお話し相手おひさま）が御荘文化センターで開催されました。

介護従事者だけでなく一般からも多数の方が参加。（一社）日本アンガーマネジメント協会の石井真奈氏から、イライラや怒りの衝動をコントロールする方法を学びました。石井氏は「イライラ・怒りで後悔しないコツを日々実践して、職場や家庭での怒りの連鎖を断ち切りましょう！」と呼びかけました。



9/11 カットボランティアで地域貢献

南宇和理容美容組合（吉村則男代表）では、敬老の日を前に、町内6か所の老人福祉施設でカットボランティアを行いました。この活動は、理美容師が仕事を通じて地域社会に貢献したいとの思いで30年以上にわたって続けられています。

城辺みしま荘でボランティアに参加した山本淳子さんは、「もともとボランティア活動に関心があり参加している。感謝の言葉を聞くと嬉しい」と話し、カットしてもらった施設利用者からは、「気持ちが良くなり嬉しいです」と喜びの声があがっていました。



【参加された方々（敬称略、順不同）】

幸田達人、久徳耕一、円城寺正敏、本多計章、稲田りえ、菊池高幸、山中知雄、吉田浩史、鎌田順子、谷口ヒロ子、宇都宮悦、宇都宮典子、宇都宮真樹、吉村則男、高橋祐樹、山本一成、宮本節子、二宮ふさ美、末弘信乃、山本安宅、山本淳子、瀧口賢一

9/13 JICA ボランティア藤原美月さん ベナンから帰国

JICA（国際協力機構）の青年海外協力隊員として2年間、ベナン共和国に派遣されていた藤原美月さん（御荘平城出身）が帰国し、愛南町役場を表敬訪問しました。

藤原さんは現地の小学校で図工や音楽を教えたり、教員向けの研修会を開催したりしました。文化や生活の違いに驚きながらも、「行って気付くことがたくさんあった。JICA ボランティアに関心のある方には積極的に情報提供していきたい」と意欲を語りました。



藤原美月さんへのインタビュー

